

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
無二話			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	職員間で共通理解をしていく事は難しく、今後も具体的例などを挙げながら進めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	もう少し地域の方と接する機会を持ち、日常的な付き合いができるよう取り組みたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	在宅介護支援センターと連携し、介護者教室や老人会へ参加し、独自でも活動できるように取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>今後も定期的に在宅介護支援センターと協力をし、開催したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>平成20年度はテーマを決め、定期的を開催し、グループホームのサービスの向上に活かしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>定期的に勉強会を開催し、職員の理解を図ると共に夜勤を二人体制にするなど、虐待が起こりにくい体制を確保していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書をわかりやすく説明し、事業所でできる事とできない事を明確に説明し、理解、納得していただけるようにしている。また、日々の中でも家族等が来られたときには、何かないか積極的に尋ねるようにはしている。</p>	<p>○</p> <p>説明の仕方を工夫するなどよりわかりやすく、説明できるようにしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々利用者からの意見の集約を図っており、出来るものから目に止まる形で対応している。</p>	<p>○</p> <p>定期的話し合いの場を持つなど、よりわかりやすく、意見を出していただけるように、場などを設定したい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の生活を写真に撮り、ご家族の面会時に見ていただきながら、状況をお伝えしている。また、来られない家族に対しては、電話にて生活状況を報告している。</p>	<p>○</p> <p>金銭の出納や生活状況について、文章にて定期的に報告する。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には、来苑時常に声をかけ何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。また意見箱を玄関に設置し、意見、要望等を少しでも、聞けるようにしている。出された意見等は、職員で発生要因を話し合い、反映させている。</p>	<p>○</p> <p>家族会等を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みが必要であり、実施したい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>休憩や食事時間を共にし、意見や要望等を聞くように心がけているが、苦情等は言いにくいこともあり把握できていない。</p>	<p>○</p> <p>定期的な職員の集会を開くなど、管理者から議題などを設定するなど工夫して意見や提案を出していただくようにする。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態やペースに応じた体制がとれるようにその都度話し合いをし、調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>早出・遅出・夜勤者の確保など課題は多いが、利用者の安全などが確保できるように柔軟な職員体制に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者ご家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事が重要と考え各ユニットの職員を固定化している。離職等の場合も不安にならないように引継ぎ面で努力している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用には性別、年齢等を採用対象にはしていない。</p>		
<p>20</p> <p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>定期的な研修会の開催の他、日々のケアの中で人権などについては教育している。</p>	○	<p>人権教育は、必要であり、今後も創意工夫をし、効果的な研修会を実施したい。</p>
<p>21</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修にできるだけ参加できるようにしている。研修報告は、毎月の全体会で発表し研修報告書を職員が閲覧できるようにしている。また上司の意見やアドバイスを受けている。</p>	○	<p>年間の研修計画を立て、個人の目標なども立て、より効果的なトレーニングをしていきたい。</p>
<p>22</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>情報交換程度は出来ているが、その他については出来ない。</p>		
<p>23</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの要因について気を配り、職員間の人間関係を把握するよう努めている。親睦の場を作り気分転換を図れる機会を作っている。</p>	○	<p>濃密な人間関係で、グループホームの職員の介護ストレスは強く、個人面接の他、レクリエーションの機会を設け、ストレスの軽減に取り組んでいる。今後も積極的に実施したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごす時間を設け、職員の勤務状況を把握している。職員が向上心をもって働けるよう職能評価を行っている。	○	資格取得などへの支援を行っていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談や担当のケアマネジャーの情報から生活状態を把握するように努めている。	○	担当ケアマネジャーと自宅への同行訪問など情報収集のほか、スムーズに利用できるような人間関係も作っていききたい。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安なこと、求めていることを等を把握し、信頼関係の構築に努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、できることはすぐに行い、できないと思われることも、どうにかできないかを職員で話し合い、方策を考えている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族に見学していただき、不安がある場合は職員が送迎を行い、遊びに来ていただくことを繰り返しながら、安定するのを見極め利用していただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを常に職員と話し、普段から利用者に教えていただくことの工夫や声かけに心がけている。	○	利用者が主人公になれる場を積極的に作っているが、今後益々そういう場を作っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	○	今後益々、家族と一緒に考え、望むか暮らしを作っていくたい。
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	○	趣味などを理解し、活動を一緒に出来るように支援しているが、今後そのメニューを増やし、対応していきたい。
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時には、ご家族や担当のケアマネジャーから情報の収集に努め、日々の生活に少しでもいかせるようにしている。利用後も訪問時など少しずつ把握できるように努めている。	○	利用後も自宅に帰る機会を作るなどし、継続的な情報の収集に努めている。出来ていない利用者もいるため、更に努めていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で話し合いを持ち、把握に努めているが、個々の職員間の能力に差があり、利用者個々で出来ていない面がある。	○	職員研修などを通じ、利用者の能力把握が更に向上するようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように日頃から本人、ご家族から要望や意見を聞くようにし、介護計画に反映できるようにしている。	○	本人、家族の意見の他、栄養士や看護師などを意見を出来るだけ幅広い意見を聞き、介護計画に反映させている。今後も更に深めていきたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとにケアプランの見直しを行っており、状態の変化があった時は、その都度検討、見直しを行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、職員間の情報共有を徹底し、介護計画の見直しに活かしている。	○	記録方法の見直しを検討し、見やすい書式を作成していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人全体のサービス機能を常に頭に入れ、行事や日々のケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域密着型サービスであり、近郊からの利用者が多く、過去の経歴などを参考にしながら対応を図り、支援している。</p>	○	<p>今後も地域資源を活用すると共に、空家になるケースも多く、警察や近隣の方と連携をとりながら対応を図ってきたい。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>グループホームに入所した後に他のケアマネジャーと連携する事はないが、安雲拓心苑デイサービスセンターや特別養護老人ホーム安雲拓心苑とは連携を取りながら、支援している。</p>		
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただいているが、それ以外の連携はしていない。</p>		
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>通常は、在宅でのかかりつけ医がそのままみていただくように話をしている。しかし、往診体制がない、又は遠方などの医療機関については、話し合いを持ち、既往歴から判断し、対応出来る医療機関などを紹介している。</p>		
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関に認知症専門医がおり、連携体制をとり指示や助言をもらっている。</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所に看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。夜間帯は系列の特別養護老人ホームの看護師と連携できるようにしており、状態把握も日頃から行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	、○	入院時の情報を元に職員間で話し合いを持ち、退院時のケアがスムーズに行くようにしている。その事を家族や入院先に伝え、よりスムーズに連携できるようにしていきたい。
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末ケアに関しては、職員の経験年数や終末対応経験がない職員も多く、今後研修で知識を付け、方針の理解、本人、家族の支援が出来るようにしていきたい。
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	緊急対応できる組織を今後も作っていく為に研修会等を計画的に実施していきたい。
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	今後も継続的なテーマであり、職員間で常に話し合いをもっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	能力把握を行い、個々の利用者の対応に合わせた声掛けを行うようにしているが、職員間の能力格差もあり、対応は十分ではない。	○	ケースカンファレンスなどを通し、利用者個々の能力を共通理解し、具体的例を上げながら、利用者がその能力の中で自己決定できるように支援していきたい。
54 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を配慮しながら、買い物や散歩等本人の思いを尊重し対応している。	○	職員体制を考えながら、優先順位をつけながら支援をしている。約束などをした場合には、本人にわかるように出来るだけしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、本人の意向で決めており、職員は見守りや介助が必要な時に、手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、職員が支援している。カットや毛染めは、馴染みの理美容院で行っている。		
56 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等も利用者と一緒にいき、職員は各自弁当等を持参しているが、職員と利用者が一緒に食事ができるよう雰囲気づくりは大切にしている。		
57 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を把握しており、状態や時間をみながら楽しめるようにしている。それらを買に行くことも楽しみのひとつとしている。タバコについては、職員が管理しており、他の方の迷惑にならないように、吸う場所に配慮している。		
58 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しており、トイレの声かけや誘導を行いトイレでの排泄を促している。	○	認知症高齢者にとって便秘は、不穏、混乱などを引き起こす要因となるため、トイレで排せつできるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>本人の今までの生活習慣や希望に合わせて入浴ができるように職員の勤務体制を見直し、できるだけ実施できるようにしたい。</p>
60	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
62	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	<p>地域の催し物などの情報を出来るだけ収集し、外出の機会につなげている。</p>
64	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	<p>本人、ご家族から希望を言ってもらえるよう、積極的に働きかけ実現できるようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人目を気にせず電話が使えるようにしている。	○	自分から手紙を書いたり電話をかけたりされる方はいるが、こちらから利用を促せばできる方もいる為、家族や大切な方との関係をつなぐ手段として支援していきたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等は定めておらず、都合のいい時間帯に来苑していただけるようにしている。本人とご家族だけでゆっくりと過ごせるように配慮している。希望家族には食事の準備をし、一緒に食べていただいたり、泊まっていたり配慮もしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施、理解しており身体拘束のないケアに取り組んでいる。	○	自分では気づかない身体拘束がないか職員間で点検しながら取り組んでいきたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はタッチ式の自動ドアで対応。日中は施錠は行っていない。行動が落ち着かない利用者には、本人に気づかれなように職員が見守りを行っている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者があるホールで記録の作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は数時間毎に利用者の状態を確認している。	○	安全面ばかりを重視するのではなく、プライバシーに配慮しながら、状況把握に努めたい。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物は保管場所を決め管理している。一律に片付けてしまったり、今まで大丈夫だったからと安易に考えているところもあり、状態に応じた対応が必要である。	○	一人ひとりへの状況変化によって危険要因が違うことを理解し、管理方法をどうしていくのかを職員で話し合い見直したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じて想定される事故を職員で話し合い、防止に努めている。事故報告書やヒヤリハットをもとに、防止策を検討している。		
72 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを整備し周知徹底を図っている。消防署の協力を得て救命講習をほぼ全職員が参加している。	○	緊急の対応などは、その時に出来ようしておく事が必要であり、適的に研修会を開催していきたい。
73 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回行っており、職員は避難場所、避難経路を理解している。消防署、警察には協力を得られるようにしている。隣の団地の方には、日ごろより協力が得られるように働きかけている。		
74 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態により起こり得るリスクとそれに対する対応策をご家族に説明し、理解を得られるようにしている。	○	職員が話をすることが多いが、主治医などと一緒に話をする機会を多くし、より理解を深めるようにしていきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を把握し、少しでも顔色等変化があった場合は、バイタルチェックを行い、看護師に報告し対応している。普段から体調や些細な表情の変化を見逃さないように、早期発見に努めている。系列の看護師と常に情報を共有し、連携を取っている。	○	全ての職員が少しでも異常の発見が出来るように、日々のケアの中で向上していきたい。
76 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を添付し、副作用については職員に伝達し把握している。服薬時は、名前を確認のうえ手渡しし、服薬が確実に行えた事を確認している。薬の処方や用量が変わった時は、職員に伝達し、状態を記録し、看護職員と連携に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	職員に排泄の重要性を理解していただくための研修会などを継続的に開催していく。また、より自然排便が出来るように更なる工夫をしていきたい。
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
80	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
81	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にし、植物を飾るなど配慮している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや玄関にソファーやベンチを置き、話ができるスペースを確保している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、部屋には押入れしかなく、そのスペースを自宅で使用していた馴染みの家具でレイアウトしていただくようにしている。その搬入などは、職員と一緒に自宅に取りに行くなどの協力をしている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いに対しては注意を払い、施設独特な臭いがしないようにしている。温度管理は、こまめにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物干し台等利用者が使用するものは、使いやすいように配慮している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱の原因を追究し、状況に合わせて環境整備に努めている。	○	日々、利用者の意識状態は変化し、その日の状態に合わせた対応が出来るように、支援していきたい。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	芝生を外気浴やレクリエーション活動、食事等に利用している。ベランダには物干し台を置き、利用者が洗濯物を干したり、取り込みを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症高齢者の支援は、認知症の基本的理解の他にその高齢者本人の今までの性格であったり、生きてこられた経緯が現状の生活に大きく反映をしており、その理解をしていく事が重要であると認識している。また、日々不安やせん妄などで感情の移り変わりがあり、その点を理解した対応が出来るように事業所として取り組んでいる。また、平成18年4月から終末期対応が看護師との連携の下、やりやすくなったため、重度化した際の利用者の身体的知識、ケア技術の向上に努めている。